

## 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）について

栃木県教育委員会事務局義務教育課

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2) 調査の対象

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年、  
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒

#### (3) 調査の内容

##### ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

※ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととしている。

##### イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・ 児童生徒に対する調査
- ・ 学校に対する調査

#### (4) 調査実施日

教科に関する調査 （中学校理科以外）	令和7（2025）年4月17日（木）
児童質問調査	令和7（2025）年4月18日（金）～4月30日（水）のうち 文部科学省から指定された実施日
生徒質問調査 教科に関する調査（中学校理科）	令和7（2025）年4月14日（月）～4月17日（木）のうち 文部科学省から指定された実施日
学校質問調査	令和7（2025）年4月1日（火）～4月17日（木）のうち 各学校の任意の実施日

#### (5) 調査を実施した児童生徒数・学校数

学 年	児童生徒数	実施校数	（内訳）
小学校第6学年	14,485人	333校	小学校・義務教育学校 331校 特別支援学校小学部 2校
中学校第3学年	14,138人	152校	中学校・義務教育学校 149校 特別支援学校中学部 3校
全 体	28,623人	485校	

## 2 調査結果の概要

### (1) 教科に関する調査の結果

#### ア 平均正答率・平均IRTスコア

(単位：％、スコア)

学年	項目	県・全国（公立）	国語	算数・数学	理科
小学校 6年	設問数		14	16	17
	平均正答率	本県	66	58	58
		全国	66.8	58.0	57.1
中学校 3年	設問数		14	15	26
	平均正答率	本県	54	48	50.4
		全国	54.3	48.3	50.3

※ 文部科学省では、各都道府県の平均正答率を整数値のみで公表している。

※ 中学校理科では、IRTスコア（網掛け）で結果を公表している。

#### イ 学習指導要領の内容・領域別の平均正答率

##### 【小学校】

##### ① 国語

(単位：％)

学習指導要領の内容		本県（全国）	全国との差（ポイント）
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項（2問）	75.9（76.9）	-1.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項（1問）	62.0（63.1）	-1.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項（1問）	80.8（81.2）	-0.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと（3問）	64.9（66.3）	-1.4
	B 書くこと（3問）	69.6（69.5）	0.1
	C 読むこと（4問）	57.5（57.5）	0.0

##### 【全国の結果との比較】

- ・ 「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」の内容において、全国平均正答率を上回っている。

##### ② 算数

(単位：％)

学習指導要領の領域		本県（全国）	全国との差（ポイント）
A	数と計算（8問）	62.0（62.3）	-0.3
B	図形（4問）	57.2（56.2）	1.0
C	測定（2問）	54.4（54.8）	-0.4
C	変化と関係（3問）	55.9（57.5）	-1.6
D	データの活用（5問）	62.0（62.6）	-0.6

※ 「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は教科全体の設問数とは一致しない。

##### 【全国の結果との比較】

- ・ 「B 図形」の領域において、全国平均正答率を上回っている。

##### ③ 理科

(単位：％)

学習指導要領の領域		本県（全国）	全国との差（ポイント）
	エネルギー（4問）	47.9（46.7）	1.2
	粒子（6問）	52.2（51.4）	0.8
	生命（4問）	54.3（52.0）	2.3
	地球（6問）	67.4（66.7）	0.7

※ 「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は教科全体の設問数とは一致しない。

##### 【全国の結果との比較】

- ・ 全ての領域において、全国平均正答率を上回っている。



## (2) 児童生徒質問調査の結果

※ 網掛けは、とちぎっ子学習状況調査の結果を示している。

## ア 教科の学習について

- ① 「国語（算数・数学、理科）の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

学年	教科	令和7年度（全国）	令和6年度（全国）※理科は令和4年度
小学校 6年	国語	85.1（82.8）	88.5（86.3）
	算数	79.4（78.3）	83.0（82.1）
	理科	90.3（88.9）	91.6（88.5）※
中学校 3年	国語	78.9（77.0）	87.3（82.7）
	数学	71.0（70.3）	75.8（75.7）
	理科	76.4（71.4）	80.0（75.2）※

## 【全国の結果との比較】

- 全ての学年・教科において、全国より高い結果となっており、特に、中学校理科の割合が5.0ポイント高い。

## 【令和6年度との比較】

- 全ての学年・教科において、肯定的な回答の割合が低くなっている。

## 〈参考〉令和7（2025）年度とちぎっ子学習状況調査との関連

（単位：％）

学年		国語	算数・数学	理科
小学校	4年	88.9	88.5	95.6
	5年	91.3	87.5	95.3
	6年	85.1	79.4	90.3
中学校	2年	87.8	82.2	86.6
	3年	78.9	71.0	76.4

- どの教科においても、学年が上がるにつれて肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られる。

- ② 「国語（算数・数学、理科）の勉強は好きですか」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

学年	教科	令和7年度（全国）	令和6年度（全国）※理科は令和4年度
小学校 6年	国語	59.8（58.3）	64.0（62.0）
	算数	59.1（57.9）	61.2（61.0）
	理科	82.5（80.1）	82.4（79.7）※
中学校 3年	国語	59.1（57.9）	68.2（64.3）
	数学	51.9（53.8）	55.7（57.2）
	理科	68.3（63.8）	69.1（66.4）※

## 【全国の結果との比較】

- ほとんどの学年・教科において、全国より高い結果となっており、特に、中学校理科の割合が4.5ポイント高い。

## 【令和6年度との比較】

- ほとんどの学年・教科において、肯定的な回答の割合が低くなっている。

## 〈参考〉令和7（2025）年度とちぎっ子学習状況調査との関連

（単位：％）

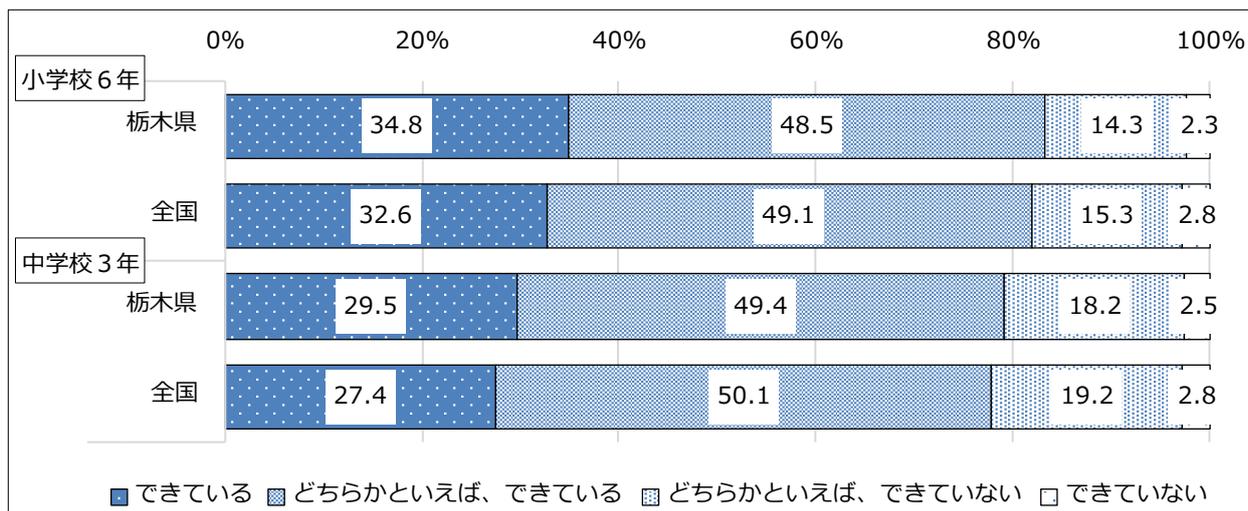
学年		国語	算数・数学	理科
小学校	4年	70.0	71.1	90.6
	5年	69.3	64.8	86.4
	6年	59.8	59.1	82.5
中学校	2年	64.6	58.6	74.0
	3年	59.1	51.9	68.3

※ とちぎっ子学習状況調査では、「学習は好きですか」という質問内容

- どの教科においても、学年が上がるにつれて肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られる。

イ 学習習慣について

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に対して回答した児童生徒の割合

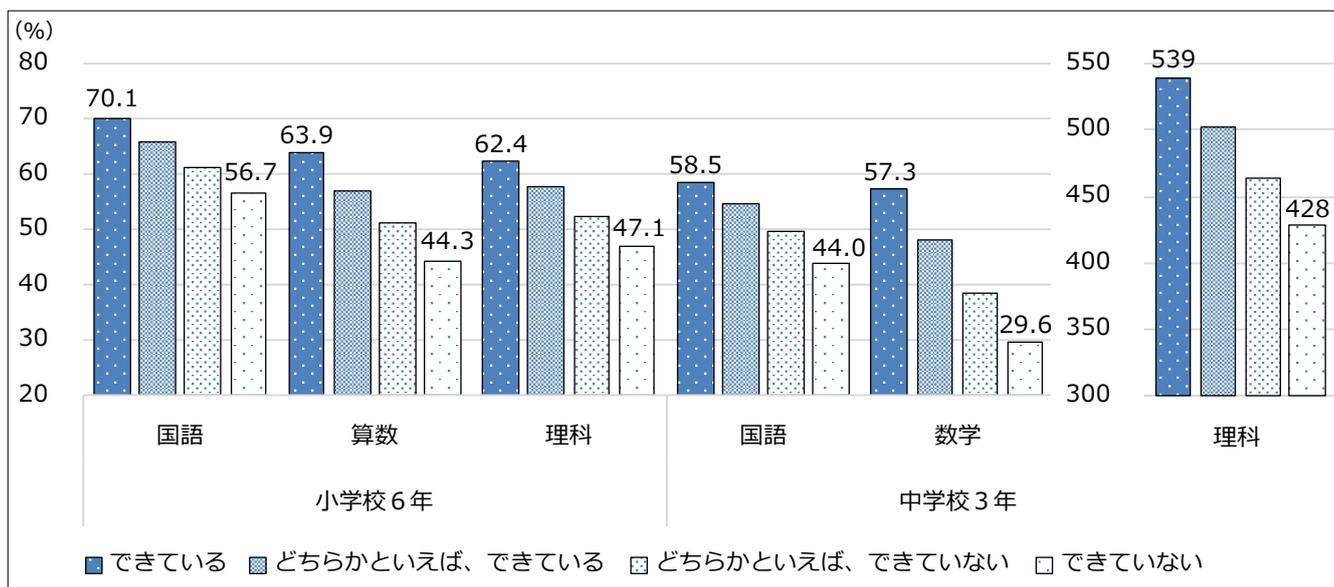


【全国の結果との比較】

- ・ 小学校・中学校とも、本県の回答は、全国の回答とほぼ同様の傾向が見られる。

※ 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に対する回答結果と教科平均正答率とのクロス集計結果

- ・ どの学年、教科においても、「できている」と回答した児童生徒は、「できていない」と回答した児童生徒よりも平均正答率が高い。



ウ 自己有用感について

- ① 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (単位：%)

学年	令和7年度(全国)	令和6年度(全国)
小学校6年	88.4 (86.9)	85.1 (84.1)
中学校3年	88.0 (86.2)	85.6 (83.3)

【全国の結果との比較】

- ・ 小学校において全国より1.5ポイント、中学校において全国より1.8ポイント高い。

【令和6年度との比較】

- ・ 小学校において3.3ポイント、中学校において2.4ポイント高くなっている。

〈参考〉令和7(2025)年度とちぎっ子学習状況調査との関連 (単位：%)

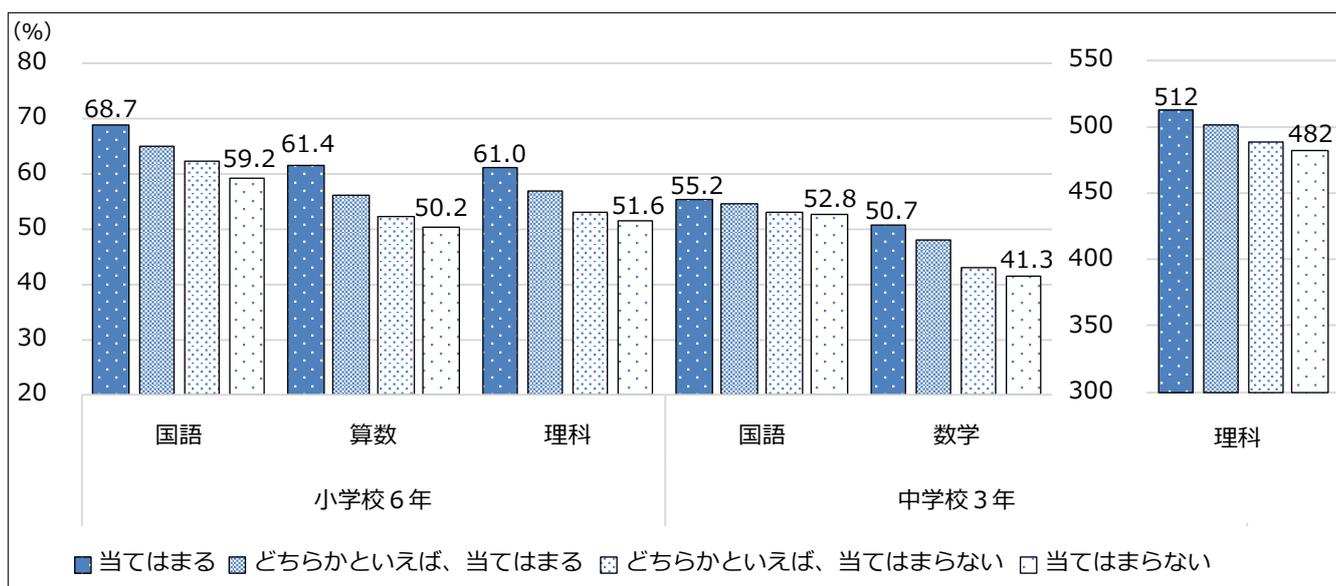
学年	肯定的回答の割合
小学校4年	84.6
小学校5年	83.2
小学校6年	88.4
中学校2年	80.3
中学校3年	88.0

【とちぎっ子学習状況調査との関連】

- ・ 小学校・中学校ともに、最高学年(小学校6年、中学校3年)において、肯定的に回答した児童生徒の割合が最も高くなっている。

※ 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する回答結果と教科平均正答率とのクロス集計結果

- ・ どの学年、教科においても、「当てはまる」と回答した児童生徒は、「当てはまらない」と回答した児童生徒よりも平均正答率が高い。



- ② 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (単位：%)

学年	令和7年度(全国)	令和6年度(全国)
小学校6年	94.6 (92.2)	93.0 (89.9)
中学校3年	94.3 (92.2)	93.6 (90.4)

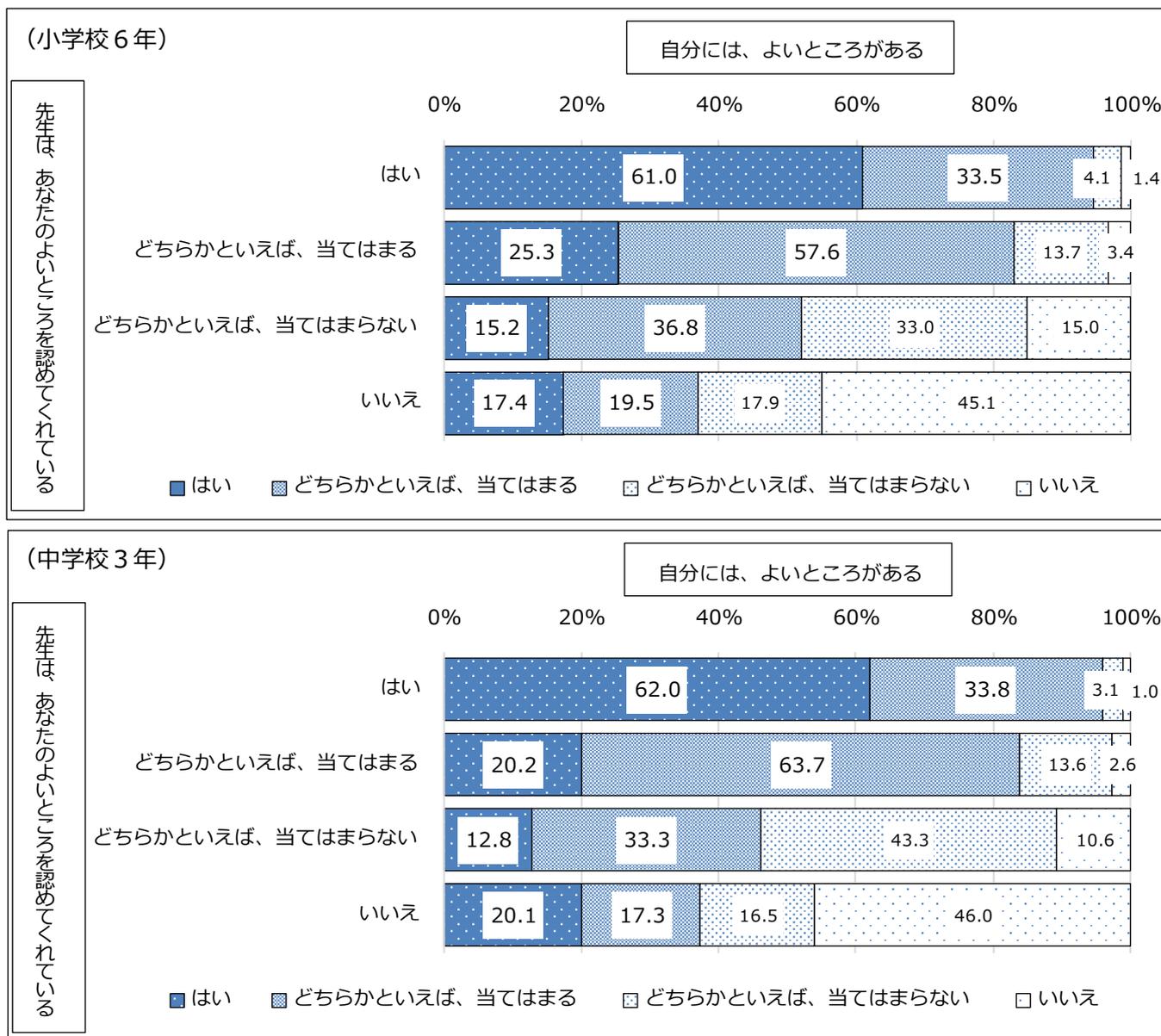
【全国の結果との比較】

- ・ 小学校において全国より2.4ポイント、中学校において全国より2.1ポイント高い。

【令和6年度との比較】

- ・ 小学校において1.6ポイント、中学校において0.7ポイント高くなっている。

- ※ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対する回答結果と「自分には、よいところがある」との質問に対する回答結果との関連



- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」の質問に対して、「はい」と回答している児童生徒のうち、小学校6年では61.0%の児童が、中学校3年では62.0%の生徒が、「自分には、よいところがある」の質問に対しても「はい」と回答している。
- このことから、先生はよいところを認めてくれていると思っている児童生徒ほど、自分にはよいところがあると感じている傾向にあることが分かる。